

2022年度 事業報告(案)

社会福祉法人 かたるべ会

はじめに

2022年度、相変わらず、新型コロナウイルスの影響で様々な活動が制限せざるを得ない状況が続いています。特に、販売活動、演劇活動、音楽活動、旅行やイベントなど、様々な活動を制限せざるを得ない状況が続いています。しかも、その行動制限は日々の生活に大きなストレスをもたらしています。そのような中、感染対策に関する意識は高まり、2月以降、法人内で感染者が発生していない状況です。そこで、2月より感染対策は徹底しながら、行動制限は解除することとしました。

また、一方ではリモート会議、リモート販売、リモート旅行、リモート入社式、リモートイベントなど新しい活動様式を生み出すこともできました。また、これらのリモートを使った活動様式は、移動に支障がある方、遠方の方、大人数でのイベントなど、コロナ後も通常業務と並行して活用できるツールとして活動の幅を広げています。

2022年度 事業報告のポイント

1、新型コロナウイルス

- (1) 1年間の感染者数は、社員入居者56名、職員31名、ご家族102名
- (2) 感染者の多くは家庭内感染

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

- (1) ZOOM または対面による個別支援面談の実施
- (2) ZOOM または対面による職員面談実施
- (3) ZOOM または対面による職員研修実施
- (4) 月1回、必要に応じ嘱託医(精神科)による面談を実施

3、充実した社会生活に向けた取り組み

- (1) コロナ禍、ストレス緩和対策とコミュニケーション
- (2) 感染対策をしながら、積極的な活動を展開

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

- (1) 感染対策をしながらの交流活動
- (2) 感染対策をしながらの実習などの実施

5、健康に関する取組

- (1) 健康的な食事
- (2) 健康的な運動
- (3) 心の安定に関する取り組み

6、SDGsの取組

すぐ出来ることから取り組む

(13)気候変動に具体的な対策を

- ① リサイクル、ごみの分別と削減、ペーパーレス化
- ② バイオマスゴミ袋などを使用する
- ③ 出来るだけ公共交通機関を利用(排気ガス削減)

(14)海の豊かさを守ろう

- ① マイバック、マイはし、マイボトルを使う
- ② レジ袋やプラスチック製品を使わない

(15)陸の豊かさを守ろう

- ① 毛皮や牙などを使った製品を買わない
- ② 飼えなくなったペットを野山に捨てない
- ③ 食肉、乳製品の購入を控える(買わない)

【日中活動施設 GH 状況報告】別紙—1

- ・2022年度 日中活動施設は4月に新入社員4名を向かえ、第1かたるベ社が16名、第2かたるベ社が35名、第3かたるベ社が17名、ジャズミンが26名 うれしのが46名 合計140名でスタートしました。うれしの放課後等デイサービスは登録者17名でスタートしました。年度内に就労された方が3名 退所された方が4名おりました 就労されていた方で戻って

来られた方は3名おります また病気等で通所できない方が2名おります 放課後等デイサービスは登録者3名増えて 20名です

3月末の時点で第1かたるベ社が15名、第2かたるベ社が34名、第3かたるベ社が16名、ジャスミン25名、うれしのが 48名の在籍となって合計で138名の社員になります。

- ・グループホームは4月の時点でハイツマモルエリアが40名 セルフフィッシュエリアが38名 ジャスパーエリアが17名でスタートしました 年度内に入退居された方はいませんでした

【日中活動売上報告】 別紙-2

売上に関して 前年度と比較して 総売上(粗利で比較)

2022年度(19,219千円) 月平均 1,602千円

2021年度(19,874千円) 月平均 1,656千円

→総売上が 2021年度に比べて 2022年度は約54万円、売上が下がりました

年間前年比96.7%

○売上が上がった主な活動

- ・受注関係の売上が約111万円上がりました(約249万円→約360万円)

ミック(株)の 2021年度は作業実績無しでしたが今年度から数年ぶりに取引が再開し

41万円の売上が上がりました

(株)コーケンが継続した取引ができて前年度より30万円上がりました

(株)富士紙器印刷は昨年も年間100万円を超えていたが今年度もさらに売上が上がりました

新規で(株)ビーコルセアーズと取引し 10万円の売上となりました

- ・配達関係は昨年度をベースに活動し新たに日祐(株)のメール便を 行い売上に繋がりました

- ・ジャスミン関係の販売は 新しい販売形式(Yahoo販売)などで昨年度より少し

プラスとなりました

○売上が下がった主な活動

清掃関係の売上が約116万円下がりました(約797万円 → 約681万円)

第1・第2で契約している清掃作業で契約を更新しなかった取引先や作業が出来なかった

活動で93万円程売上が下がりました

その他の清掃作業も現状維持または売上が下がっていた。

販売関係の売上が 56万円下がりました(約786万円 → 約730万円)

うれしの関係の販売が 61万円ほど減少しました(約539万円→約477万円)

※全体として

年間前年度比で96.7%となり、前年を超えることはできなかった。

コロナ禍で落ち込んだ受注作業が前年比144%の売上となり大きく売上に繋がった

清掃や販売の活動はコロナの影響で外出等の制限があり、前年度を下回る結果となりました

2022年度 第1かたるベ社事業報告

【活動内容】

1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

(1)「密集」「密接」「密閉」を避ける

- ・作業室のレイアウトを向き合わないようにする。
- ・帰宅時、密にならないように時間差で帰る。

(2)マスクの着用を徹底、換気

- ・昼食時等にはマスクを廃棄し、新しいマスクを着用。サイズも確認する。
- ・24時間換気(換気扇)、二酸化炭素濃度測定器を使用する。

(3)手指消毒、ドアノブなど、手に触れる部分の消毒

- ・社員、職員、来客の手指消毒、玄関口、ドア等の消毒徹底。

(4)検温など、健康管理の徹底

- ・健康観察アプリ等を使用して、体温確認。(出勤前、出勤時、午後)
- ⇒向かい合わないようなレイアウト、パーテーションの使用、玄関での密を避けた。
- ⇒マスクの着用の徹底、サイズ確認。換気、手指消毒の徹底。
- ⇒アプリを使用して、検温を実施。

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

(1)個別支援面談で「生きづらさ(壁)」を明らかにする。

- ・本人、ご家族、関係者から深く話を聞く機会をつくっていく。

(2)個別支援計画で「生きづらさ(壁)」に対するサポートを強化する

- ・制限された中でも、自己実現ができるような環境を考えて、支援を行う。

(3)個別支援会議、個別支援面談を深める

- ・自己実現に向けて、繰り返し意見交換をし、考えを深めて実践していく。

・状況に応じて、Zoom等のオンライン面談も行う。

(4)「楽しく、生き生きと暮らせる環境」を模索し切り開く

・個別に関わる時間をつくり、信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。

・全体ミーティングする機会を増やし、事業所でできることを考えていく。

・ご家族同士の面談を必要に応じて行う。

⇒主にZoomを活用したオンライン面談を実施。

ご家族との信頼関係を深めるために幅広いテーマで話をした。

⇒ご家族から相談を受け、生活支援に関わることになった。

3、充実した社会生活に向けた取り組み

(1)本人が求める「社会的労働」を見極め、実現に向けて活動する。

・受注、受託作業

企業から受注する軽作業。(シール貼り、梱包、封入、ポスティング作業等)

行政から受託する公園や歩道、学校プール清掃。(旭区、緑区、青葉区)

鴨居自治会の回覧セッティング作業。

⇒新規取引先が1件あり、一人ひとりに合わせて新しい仕事にチャレンジした。

⇒コロナ禍で取引が無かった企業から、数年ぶりに仕事をいただくことになった。

⇒新しい地域のポスティング作業にチャレンジした。

・自主製品作り 販売活動 ※社会状況に応じて、活動を検討していく

アロマ用品、キーホルダー、アクセサリ等の製作。

大日本プロレス等とコラボ商品を開発する。

Twitter、Instagram、Youtube等を使用した広報活動をする。

⇒数年ぶりに緑区民まつりに出店し、販売をした。

⇒販売活動以外の日々の活動をSNSで発信をした。

⇒新商品としてレジンを使ったアクセサリを製作した。

・就労支援、職域開拓 ※社会状況に応じて、活動を検討していく

ボランティア活動、企業見学、実習、企業への応募等に取り組む。

演劇や絵画、イラスト等、職域開拓を意識した活動をする。

第2かたるベ社と連携し、NPO法人スローレーベルの活動にも関わる。

⇒数年ぶりにNPOスローレーベルの活動に参加した。

⇒企業見学や面接等に応募し、新しいチャレンジをした。

⇒高齢者施設の清掃作業に1名が就職した。

(2)「楽しく、生き生きと暮らせる環境」を模索し切り開く

・個別のコミュニケーションを増やし、一人ひとりが活かされた活動をする。

・定年を迎えた方等に対して、活動内容を柔軟に考えていく。

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

(1)関係機関をはじめ、様々な機関や人との信頼関係(相互理解)を深める

・地域清掃を行い、地域の方と顔の見える関係を深めていく。

・町内会の自治会活動は、社会状況に応じて、参加を検討していく。

・職員のお子さんが所属する地域の自治会、子供会、幼稚園の保護者会、

PTAなどには定期的に連絡を取って、状況を伝えていく。

・その他、社会状況に応じて、活動への参加は検討していく。

⇒町内会の自治会活動は中止が続いているが、回覧の仕事を通して関わっている。

⇒4年ぶりに開催された鴨居桜まつりに出店した。

5、健康に関する取り組み

(1)健康的な食事

・健康を意識した食事の提案を行い、健康維持できるよう支援していく。

(2)健康的な運動

・地域清掃やウォーキング等の健康活動を日々、取り入れていく。

・ウォーキングアプリなどを使って、数値で見る健康意識を行っていく。

(3)心の安定に関する取り組み

・個々に応じた心の安定や、健康に関する意識の形を個別に取り入れる。

⇒減塩弁当やカロリー控えめの弁当を注文した。

⇒清掃活動やウォーキングをして、健康活動を意識した。

6、SDGsの取組

・ゴミの分別(業者に確認し、家庭ごみと事業ごみの違いを理解して、取り組む)

・バイオマスのゴミ袋使用

・マイ箸、マイバック、マイボトル

・自主製品制作の時、環境に配慮した製品作りを意識する。

⇒事業所内や清掃活動でもバイオマスのゴミ袋等を購入し、使用した。

⇒日々、マイ箸、マイバック、マイボトルを意識して実践した。

2022年度 第2かたるべ社事業報告

【活動内容】

1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

○基本的な感染対策や屋外活動を多く取り入れ感染対策を徹底した

また、対面を避けたオンライン会議を多く実施した。

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

○個別支援面談を実施するとともに、必要なご家族とは適宜面談を行った。

3、充実した社会生活に向けた取り組み

・コロナ禍においても、労働の保証を意識する動きを継続する。

【新規打ち合わせ】

1件(打ち合わせ)

・屋外活動にも積極的に取り組み、より充実した労働環境と選択肢の提示を目指す。

【みなとみらい清掃】 合計3回

【緑区清掃】 合計28回

【緑歩道清掃】 合計7回

【旭区清掃】 合計38回

【青葉区清掃】 合計65回

【販売活動】 10月9日 神奈川区民祭り

【ボランティア活動】

コロナウィルスの影響もあり活動無し

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

・第2かたるべ社で取り組んでいる社会的労働を通じ、地域を含む様々な人や機関と信頼関係(相互理解)を深めていく。

・取引先との相互理解が深まる活動を継続していく。(学校での講演活動など)

【横浜市立山内小学校への軽作業スタッフ派遣事業】

合計50回

【プール清掃】茅ヶ崎小学校(4回)都田西小学校(4回)東鴨居中学校(4回)

【横浜市立箕輪小学校 カーテン洗濯】合計7回

【横浜市立十日市場中学校 エアコン清掃】合計2回

【横浜市立荏田西小学校】換気扇清掃(2回)窓清掃(4回)

【(株)サンケイエンジニアリング清掃作業(池辺町の企業)】合計3回

【認定NPO法人SLOW LABEL(スローレーベル)のイベント参加】合計1回

・地域にあるプロレス団体(大日本プロレス)と一緒にコロナ禍でも行う事ができる活動を模索する。

8月お中元を渡す。

8月17日 食材の提供をいただく。活動は自粛中だか関係を継続

12月お歳暮を渡し今後の打ち合わせをする。

※それ以外の月はコロナウィルスの影響で活動無し

・YouTubeやInstagramを活用し、活動内容や取り組みを発信する

適宜、YouTube や Instagram を更新し発信した。

5, 健康に関する取り組み

・健康的な食事

健康を意識しカロリーや食事内容などの提案を行う。

・健康的な運動

ウォーキングなど運動を意識した取り組みや支援を行う。

外での清掃活動に積極的に取り組む。

・心の安定に関する取り組み

コロナによる心の健康に注意し、心身の健康維持に必要と思われる取り組みを提案していく。

【健康活動】合計14回

6, SDGsの取り組み

・マイボトルやマイバッグ使用の推奨。

・昼食時に洗える箸とスプーンの使用。

2022年度 第3かたるべ社(居場所作り支援)事業報告

かつどうないよう
【活動内容】

1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

(1)「密集」「密接」「密閉」を避ける

- ・活動中と食事の時に密にならないよう部屋を分ける。
 - ・食事中や配達中に人が密接しないよう声かけを徹底する。
- 蜜を避けるべく活動と食事を1階と2階に分けました。

(2)マスクの着用を徹底、換気

- ・マスク着用と付け方の声かけ、定期的に室内換気を実施。
- CO2濃度測定器を使って換気を実施しました。

(3)手指消毒、ドアノブなど、手に触れる部分の消毒

- ・手指消毒・手洗いうがいの声かけ、短期入所と連携し建物内を消毒する。
 - ・送迎後、配達後に車を消毒する。
 - ・携帯用アルコールを持ち適宜消毒を行う。
- 社員・職員が密にならないよう配慮しマスク着用の声かけ、換気、消毒を徹底しました
- 建物内の人に触れる場所や車のドアなどの消毒を徹底しました。

(4)検温など、健康管理の徹底

- ・出勤前に検温しリーバー(健康観察アプリ)入力(健康観察アプリ)入力を徹底する。
 - ・社員出勤時、玄関口で検温と健康観察を行う。
 - ・取引先に出入りする前に検温し、記録を提示する。
- 社員・職員の健康観察アプリ入力、社員出勤時とお昼の検温、取引先に向かう前の検温を徹底しました。

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

- ・個別支援面談や日々のコミュニケーションから「生きづらさ(壁)」を明らかにする。
 - ・個別支援計画の本人の希望に対して「生きづらさ(壁)」が表出した場合は本人と関係者で集まり考えられる支援を話し合い、サポートを強化する
 - ・引きこもり、暴力、お金に対する拘り、被害妄想、精神的不安定、コロナ禍における行動制限等の生きづらさがある人を中心に関係者でオープンダイアログを行い、その方に合った「楽しく、生き生きと暮らせる環境」を考え実行する。
- 精神的不安定、コロナ禍における行動制限がある方を中心に関係者で集まり「楽しく、生き生きと暮らせる環境」について話し合いました。

3、充実した社会生活に向けた取り組み

- ・引きこもりがちな方や出勤が安定しない方に対して、継続的に自宅訪問と電話連絡をして外出のきっかけを作る。
- 引きこもりがちな方や出勤が安定しない方に対してはご自宅へ訪問してお話を聴き、生活面の困りごとを一緒に解決しました。
- ・個々の考え方や環境の違いを認め合い、安心して活躍できる居場所を作り、その方に合った「楽しく、生き生きと暮らせる環境」を考えて実行する。

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

- ・地域清掃や美化活動、リサイクル品の回収、近隣企業からの受注仕事を通じて地域との信頼関係(相互理解)を深める。
- 企業の美化活動(草むしり)、受注仕事、地域住民の不用品回収を通じて相互理解を深められました。
- ・庭の草むしりなどの美化活動を通じて、地域で一人暮らしされている高齢者との信頼関係(相互理解)を深める。
- ・地域で居場所がない方との関わり。(実習や新規受け入れ)
- ・様々な機関や支援者との信頼関係(相互理解)を深める。
- 自立支援協議会の参加や個別支援を通じて様々な機関と相互理解を深められました

5、健康に関する取組

- ・健康面を意識したバランスの取れた食事を提案する。
- ・一人暮らしの方に健康面、衛生面の支援。
- 一人暮らしの方の身だしなみや食生活のアドバイスをを行いました。
- ・日中活動でスポーツ活動や川沿いの散歩を取り入れ、心の安定を図る。
- 活動の合間に川沿いを散歩しながらゴミ拾いを行いました。

6、SDGsの取組

- ・一般家庭で不要になった衣類や雑貨を回収し、フリーマーケットなどでリサイクル品販売をする。
- リサイクル品回収は行いましたが、販売活動は行いませんでした。
- ・取引先から回収した廃紙から、リサイクル品販売用の値札やメッセージカード等の再生紙を作る。
- 再生紙の値札を作り、リサイクル品に値付けしました。

- ・マイ箸^{はし}、マイカップ、マイボトル、エコバック^{しやう}を使用する。
→マイボトル、エコバック^{しやう}の使用をすすめました。
- ・ゴミ箱^{ぼこ}の近く^{ちか}に分別表^{ぶんべつひやう}を掲示^{けいじ}し、正しく^{ただ}ゴミを分別^{ぶんべつ}する。
→ゴミの分別^{ぶんべつ}を徹底^{てつてい}しました。
- ・事業所^{じぎやうしょ}ゴミ袋^{ぶくろ}、清掃用^{せいそうよう}ゴミ袋^{ぶくろ}にバイオマスポリ袋^{ぶくろ}を使用^{しやう}する。
→バイオマスポリエチレン 25%入り^いのごみ袋^{ぶくろ}を使用^{しやう}しました。
- ・近場^{ちかば}の清掃^{せいそう}や配達^{はいたつ}には車^{くるま}を使わ^{つか}ず、徒歩^{とほ}や公共交通機関^{こうきやうこうつうきかん}を利用^{りよう}する。
- ・使用後の電化製品^{しやうご}の電源^{でんかせいひん}は抜^{でんげん}いて待機電力^ぬを減^{たいきでんりよく}らす。
→週末^{しゅうまつ}や連休前^{れんきゆうまえ}に電化製品^{でんかせいひん}の電源^{でんげん}を抜^ぬき待機電力^{たいきでんりよく}を減^へらしました。

2022年度^{ねんど} ジャスミン事業報告^{じぎやうほうこく}

【活動内容^{かつどうないよう}】

1. 新型コロナ感染^{しんがた}予防^{かんせんよぼう}の徹底^{てつてい}

(1) 三密^{さんみつ}を避^さける。

- ・一人^{ひとり}ひとり距離^{きより}を置^おいて気^きを付^つけて作業^{さぎやう}をする。

(2) マスク着用^{ちやくよう}と換気^{かんき}

- ・ご飯^{はん}を食^たべた後^{あと}すぐ^{あた}に新^てしいマスク^{ていきやう}を提^{てい}供^{きやう}する。

(3) 手指^{しゆししやうどく}消毒^{しゆししやうどく}、ドアノブ^てなど、手^てに触^ふれる部分^{ぶぶん}の消毒^{しやうどく}

- ・衛生管理^{えいせいかんり}できない人^{ひと}にアルコール消毒^{しやうどく}など声掛け^{こゑか}をする 24時間^{じかん}換気^{かんき}をする。
- ・車^{くるま}を使う^{つか}その都度^{つど}消毒^{しやうどく}する。
- ・週^{しゅう}に一回^{いっかい}送迎^{そうげい}の車^{くるま}を掃^{そう}除^じし消毒^{しやうどく}する。

(4) 検温^{けんおん}など 健康管理^{けんこうかんり}の徹底^{てつてい}

- ・毎日^{まいにち}出勤^{しゅつぎん}する前^{まえ} リーバー^{たいおん}により体温^{かくにん}の確^{かく}認^{にん}をする。
- ・コロナ^{じき}の時期^{たんとう}、担当^{しやくいん}の職員^{かぞく}はご家族^{れんらく}に連絡^{たいちやう}をとり、体調^{わる}の悪^{ひと}い人^{じしゆてき}は自主^{やす}的に休^{やす}みをとるよう

にしてみよう。

・来客^{らいきゃく}は検温^{けんおん}する

ご飯^{はん}を食^たべるとき、社員^{しゃいん}の間^{あいだ}に仕切^{しき}りを使^{つか}っている。社員^{しゃいん}と職員^{しやくいん}の検温^{けんおん}と体調^{たいちやう}状^{じやう}況^{きやう}を
リーバー^{まいにちそうしん}により毎日^{まいにち}送^{そう}信^{しん}している。

インターンシップ^くに来^{がくせい}る学生^くに、ジャスミン^くに来^{まえ}る前^{じたく}に。ご自宅^{ごうげんけんさ}で抗原検査^{きやうか}をしてみよう。

2. 生きづらさ^い(壁^{かべ})に対^{たい}するサポ^{きやうか}ートの強化^{きやうか}

(1) 徹底的にコミュニケーションを取り、生きづらさを探す。

①一週間に一回 担当の職員よりご家族に本人の様子(いいこと)を報告し、ご家族と信頼関係を作ると同時に、ご家族の大変なことを聞き、本人とご家族の生きづらさを発見する。

②グループワーク: グループに分けて、定期的に施設長と担当者はご家族と面談をする。話しの中で生きづらさに気づく。

毎週職員によって本人の活躍をご家族に連絡していた。10人ぐらいのお母さん達と施設長とZOOMによっていろいろお話ができた。

(2) 個別支援

・本人とご家族の生きづらさを理解して、生きづらさを反映させた個別支援計画を作成し支援を強化する

(3) コミュニケーションにより常に個別支援の具体的な内容を深くしていく。

・新しい発見があったらその都度修正していく。

(4) 常に社員とご家族の立場に立って、もの事を考える習慣を作る。

・支援と支援される関係乗り越えて、いつでも社員の味方だという安心を感じてほしいです。社員のトラブルがあった時、問題視ではなく、より深く支援ができるチャンスとして、支援している。

3. 充実した社会生活に向けた取り組み

①販売活動

・販売の形式

地域での販売 ジャスミン店頭販売 わくわく広場、yahooのネットショップ 夢カフェ

・販売商品

中華食品肉まん、餃子、月餅

ベジタリアンの商品の開発 販売

コロナで中止したジャスミン店頭販売と夢カフェの販売の再開ができている。

わくわく広場での販売も順調です。

センター北駅の販売や高津養護学校の販売もしている。

ベジタリアン料理のカレーマンと高菜マンを開発し販売している。

②清掃活動

・地域貢献できる清掃活動を引き続き行う。

地域の清掃を毎週行っている。

4. 信頼関係(相互理解)の持てる社会にむけた取り組み

YouTubeを利用して

- ① 全員参加の演劇活動は、社員一人ひとりの特徴を生かした 笑い溢れた演劇をたくさんの人々に届ける。

演劇「一休」を撮影し、YouTube にアップしている。2022年10月に賑わい座で発表をした。

- ② ベジタリアンの料理の動画

- ③ SDGsの取り組みの動画

5. 健康に関する取り組み

・健康的な食事 昼食食材と調味料はすべてベジタリアン料理(精進料理)

・八式太極拳

・瞑想

・音楽活動

・森林浴

毎日オムニミートを使ったベジタリアン料理を食事する。

毎日瞑想 太極拳をしている。

6. SDGsへの取り組み

・ジャスミンの日々の活動の中に一工夫。日本の中 小企業のSDGsの取り組みを調べて研究し、どんな活動でもSDGsの17項目に照らし合わせて工夫する。

・食材を大切に使う

お野菜を丸ごと使う 外側と芯をミキサーしてスープやカレーに使う。

・水を大切に使う。

食器を洗う時 水を貯めて洗う。

・古着を利用して商品を作る。

お野菜を丸ごと使っている 水を貯めて食器を洗うなどSDGsの工夫をしている

古着で買物バックを作った。

2022年度 うれしの事業報告

【活動内容】

- 1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

・出勤時と退勤時の手指消毒、検温(1日3回)、事業所内と送迎車内の消毒を徹底する

→毎日、時間や担当者を決めて対応した

・活動内容によって室内のレイアウトを工夫し、換気を徹底する

・マスクの着用が難しい方たちが、着用できるように支援する

・会議、面談、その他活動で積極的に ZOOM を活用する

→積極的に活用した。販売活動や事業所見学でも ZOOM を活用した

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

・本人、ご家族との個別支援面談を積極的に 行う

・個別支援面談で「生きづらさ(壁)」を明らかにし、支援を強化する

→ご家族との面談に力を入れた

・強みに注目し、褒め合うミーティングを行う(オープンダイアログ)

→毎日の帰りのミーティングで実施した

3、充実した社会生活に向けた取組

・全員が適材適所で仕事に参加できるよう支援する

(食品製造、精米、食品梱包用品製造、紙すき、自主製品、販売、アート活動等)

→講師を招いてのアート活動を定期的に行った

・リモートを積極的に取り入れて販売活動を行う

→販売活動では現地と事業所をリモートで繋ぎ、事業所からも接客や呼びかけを行った

・季節やイベントに合わせた商品の製造と販売

→新商品としておからクッキー(アールグレイ、オレンジ)を販売した

・ユーチューバーとしての活動を支援する

→社員の強みを活かした動画を配信した

・インスタグラムやツイッターを活用した宣伝活動

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取組

・川和町内会との信頼関係(相互理解)を深める

・関係機関との信頼関係(相互理解)を深める

→コロナウィルスの影響により、積極的な交流はできなかった

5、健康に関する取組

・毎日、栄養のバランスのとれた食事を提供する

・栄養のバランスのとれた食事とお菓子のメニュー開発

→豆腐、厚揚げ、おから等を使用したメニューを昼食に取り入れた

おからドーナツ、豆乳プリンを販売した

・運動、音楽、瞑想などを取り入れる

6、SDGsの取組

・ゴミの分別と削減を意識する(缶、瓶、ペットボトルの廃棄をなくす)

→缶、瓶、ペットボトルのゴミ箱を撤去して廃棄をなくした

・地元の東屋豆腐店から積極的に食材を仕入れる(国産大豆使用)

→豆腐、厚揚げ等を使ったメニューを増やし、積極的に食材を仕入れた

・ペーパーレス化(お知らせや資料はデータで配布、裏紙の使用)

・バイオマスゴミ袋を使用

・レジ袋、割り箸、ペットボトルを使わない

・食肉、乳製品の購入を減らす

→肉を減らして豆腐、厚揚げ等を使用したメニューを増やした

牛乳を使用したメニューを豆乳に変えた。

・代替肉を使用したメニューを取り入れる(ジャスミンと連携)

→オムニミートを使用したメニューを取り入れた。

2022年度 うれしの児童放課後等デイサービス事業報告

【事業内容】

放課後等デイサービス(障碍児通所支援事業)

定員10名/日 登録数19名

【活動内容】

1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

(1) 不特定多数の方々が滞在する場所での活動を避ける

(2) マスクの着用を徹底、換気

・マスクの着用が苦手な児童に対して着用の挑戦を促す

(3) 手指消毒、ドアノブなど、手に触れる部分の消毒

・おやつ、昼食前にテーブル、手指の消毒の徹底

(4) 検温など、健康管理の徹底

・送迎乗車前、または通所の際に検温、消毒の徹底

⇒児童、職員間で新型コロナウイルス感染があり横浜市からクラスター認定を受けた。

事業所を閉鎖し感染拡大の防止に努めた。

事業所を閉鎖している期間もご家族へ健康観察の連絡を行った。

⇒6月のクラスター発生以降も感染報告はあったが、感染対策を実施し感染拡大を防ぐことができた。

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

(1) 感染予防に配慮し、ZOOMなどで面談を実施

(2) 個別支援面談で「生きづらさ(壁)」を明らかにする

・児童の生きづらさを明らかにした上で、家族の生きづらさも明らかにする

(3) 個別支援計画で「生きづらさ(壁)」に対するサポートを強化する

・身体拘束やルールなどで行動を制限が必要な場合個別支援計画に明記するが、
それに変わりうる支援について常に模索する

(4) 個別支援会議、個別支援面談を深める

・児童・生徒およびご家族との信頼関係を深める

・個別支援計画にて、児童・生徒の将来展望を深める

・適切な親子関係に向けた支援(親子の信頼関係を深める)

・将来展望を見据えた見学と研修は感染予防に配慮し行う。

(日中活動施設、グループホーム、障害者雇用)

・将来展望を見据え、短期入所との連携

(5) 違いを認め合い、相互理解を深め合う中で、「新しい生活と未来」を切り開く

・オープンダイアログで注目し認め合いの文化を形成する

・子育てに悩むご家族に対して相互理解を深め、家庭内コミュニケーション

が円滑に行えるよう支援する。

⇒個別支援面談を深め家族の生きづらさに寄り添い支援を行った。

⇒本人、ご家族と信頼関係を深めることで、短期入所を利用することでご家族のレスパイトに繋げることができた。

3、「放課後等」の充実に向けた取り組み

(1) 感染予防に配慮した、新しい活動プログラムを模索し実施する

(2) 個々の特性に応じた支援

・各自の特性と興味に応じたプログラムの提供(運動、音楽、ゲーム、アート活動、個別対応など)

(3) 社会適応支援

・プログラムを通して人間関係、ルールを守ることの大切さを育む

⇒個々の特性に合わせて夢中になって楽しめることを取り組んだ。

⇒外出の機会を増やしたことで地域の中で遊ぶ機会が増えた。

⇒アート活動で子どもたちが自由に自分を表現する機会が増えた。

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

(1) 感染予防に配慮した、コミュニケーションを模索し実施する。

(2) 関係機関をはじめ、様々な機関や人との信頼関係(相互理解)を深める。

(3) 「楽しく、生き生きと暮らせる環境」を模索し切り開く

⇒関係機関と連携し家族の生きづらさを共有した。

⇒ご家族が楽しく、生き生きと暮らせる環境とは何かを関係機関で話し合った。

5、自主的、主体的、社会参加に向けた取組

(1) 遊びなどを通し、自主性や主体性を育む

(2) 役割分担を明確にし、各自が主体的に活躍できるよう支援する

⇒帰りの会にオープンダイアログを行い、注目をされる機会を設けた。

⇒ミーティングで個性や特徴をより深く話し合いをして、各々が活躍できるプログラムを提供できるよう努めた。

6、健康に関する取組

(1) 栄養のバランスのとれたおやつを毎日提供する

(2) プログラムの中で、適度な運動を毎日行う

(3) 心の安定に向け、オープンダイアログを毎日行う

(4) 毎日「瞑想」(マインドフルネス)を実施

7、SDGsの取組

・違いを認め合い、いじめや差別をしない

2022年度 共同生活援助事業報告

【活動内容】

1、新型コロナウイルス予防の取り組み

コロナウィルス感染症対策として、マスク着用、検温や手洗いの徹底、
ソーシャルディスタンスの声掛け、換気、ホーム内の消毒の実施
食事に関しては、時間をずらし、向かい合わないように対応、アクリル板の設置
(多くて2名での食事)

アプリによる体温管理・二酸化炭素測定器を利用した換気対策

通院に関しては、遠隔診療や薬の受け取りなど職員が代行する

検査等で通院が必要な際は病院内での滞在時間が短くなるよう考慮し、アルコール等
持参しながら感染対策を徹底する

→感染対策を徹底しリビングで集まらないように対応

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

(1) 感染予防に考慮しZOOMなどで面談を実施

- ・個別支援会議やご家族面談などリモートで行う
- ・ネット環境等がないご家庭には電話等で対応

(2) 個別支援面談で「生きづらさ(壁)」を明らかにする

- ・社会生活をする上で、障碍となることをあきらかにする

(3) 個別支援計画で「生きづらさ(壁)」に対するサポートを強化する

- ・行動規制やルールではない、自己実現に向けた支援について熟慮する

(4) 個別支援会議、個別支援面談を深める

- ・入居者一人ひとりの自己実現に向け、試行錯誤を繰り返す

(5) 違いを認め合い、相互理解を深め合う中で「新しい未来」を切り開く

- ・入居者、職員それぞれの違いを認め合い尊重する
- ・強みに注目し、認め合う文化を目指す
- ・社会的不適応行動などに注目するのではなく、強みに注目し、認め合う

→対面で会う機会が減った為、電話やZOOMでご家族と頻りに連絡を取り合った。

3、充実した社会生活に向けた取組

(1) 生活

- ・グループホーム、一人暮らし、結婚など、普通の生活を実現(基本理念)
- ・グループホームは、地域の自治会活動に積極的に関わり、相互理解を深める
- ・障碍がある無しに関わらず、相互に助け合える地域社会実現に向け活動

(2) 余暇

・自分の意思で、自分の時間を自由に過ごせる環境を実現(基本理念)

・地域の中で、普通に利用できる余暇環境と人間関係を実現

・余暇のコーディネートを行う

・社会資源の提示、ガイドヘルパー派遣の連絡調整を行う

コロナウィルスの感染対策を考慮しつつ入居者が日々充実した生活がおくれるよう模索する。

ガイドヘルパー利用で近隣の散歩や買物、リモートでイベント鑑賞、リモートでギターレッスン、リモートバンジョーレッスンなど。

→個別で話し合い出来る範囲で考え活動した。

→ホーム内で楽しめることも考え行った(ぬりえ、ゲーム、かき氷、花火、おやつ作り等)

(3) 違いを認め合い、相互理解を深め合う中で「新しい未来」を切り開く

・それぞれの違いを認め合い尊重し合う社会を作る。

4、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取組

(1) 町内会との信頼関係(相互理解)を深める

(2) 関係機関との信頼関係(相互理解)を深める

(3) 近隣清掃や挨拶をし、地域社会との信頼関係(相互理解)を深める

コロナウィルス感染症対策として、地域に関しても行事や清掃活動等中止になっていることも多々あるが地域清掃等行われる際は職員のみ、または感染予防が徹底できる入居者数名で参加するなど状況に応じ対応

(4) 違いを認め合い、相互理解を深め合う中で「新しい未来」を切り開く

5、健康に関する取り組み

(1) 健康的な食事

・栄養バランスのとれた食事をサポートする

・職員は定期的に食品衛生責任者講習を受ける

→体を動かす機会が少なくなってしまうことから食事の内容に気をつけた

(ご飯にこんにゃく米を混ぜて炊く、雑穀を入れる、野菜中心等)

(2) 健康的な運動

・余暇の過ごし方を意識する

→ガイヘルや職員と一緒に散歩や休日の昼食等の買物で少し遠回りをするなど

ウォーキングを中心に^{ちゅうしん} ^{かんが} 考^{ない} え^と ホーム内だけに閉じこもることないように^{こうりよ} 考^{とく} 慮した

(3) 心^{こころ}の安定^{あんてい}に関する^{かん} 取^と り組^く み

・個別^{こべつ}の相談^{そうだん}を^き っ^き かり^き 聞^き ける^き ように^き 一^{ひとり} 人^{ひとり} 一^{ひとり} 人^{ひとり} の^{ひとり} 時^じ 間^{かん} を^{たい} 大^{たい} 切^{せつ} に^{せつ} する

・リラックス出^で 来^き る^き 環^{かん} 境^{きやう} 作^{さく} り^{さく} を^お 行^{こな} う

→コ^か ロ^{がい} ナ^{しゅつ} 禍^{せい} で^{げん} 外^{がい} 出^{しゅつ} 制^{せい} 限^{げん} も^お 多^お く^お ス^た ト^た レ^た ス^た が^た 溜^た ま^た り^た や^た す^た い^た の^た で^た 個^こ 別^{べつ} 対^{たい} 応^{おう} に^ち 力^{ちから} を^{ちから} 入^{ちから} れ^{ちから} た。

(話^は す^な 時^じ 間^{かん} や^な 個^こ 別^{べつ} で^な お^な 茶^{ちや} を^な し^な て^な の^な ん^な び^な り^な 過^な ご^な す^な 時^じ 間^{かん} を^な 作^な る^な 、^な め^な り^な え^な 等^な を^な 一^{いっ} 緒^{しよ} に^{いっ} 行^な う^な 等^な)

6、SDGsの取^と り組^く み

・節^{せつ} 水^{すい} や^{せつ} 節^{せつ} 電^{でん} 、リ^{すく} サ^{すく} イ^{すく} ク^{すく} ル^{すく} 、ゴ^な ミ^な を^な 少^な く^な する^な こと^な など^な ホ^な ム^な 内^な で^な 取^な り^な 組^な め^な る^な こと^な を^な 入^に 居^{ゆう} 者^{しや} と^と 一^{いっ} 緒^{しよ} に^{いっ} 考^{かん} え^な た。

・マイ^{はし} ボ^{はし} ト^{はし} ル^{はし} 、マイ^{しゅ} 箸^{しゅ} 、エ^{しゅ} コ^{しゅ} バ^{しゅ} ッ^{しゅ} ク^{しゅ} など^{しゅ} を^{しゅ} 習^{しゅ} 慣^{しゅ} に^{しゅ} する。

・ゴ^な ミ^な の^な 分^{ぶん} 別^{べつ} の^な 徹^{てつ} 底^{てい} ・ゴ^な ミ^な の^な 捨^す て^な 方^{かた} に^き 気^き を^な 付^つ け^な る^な (生^な ご^な み^な 、お^な 茶^な の^な パ^な ッ^な ク^な 等^な は^な 水^{すい} 分^{ぶん} を^な よ^な く^な 切^き っ^き て^き か^き ら^き 捨^す て^な る^な など)

・食^{しよ} 材^{くざい} を^む 無^む 駄^だ に^な し^な ない^な よう^な に^な 購^{こう} 入^{にゅう} する^な ・地^じ 元^{もと} 産^{さん} の^な も^な の^な や^な 環^{かん} 境^{きやう} に^や 優^{しよ} しい^{くざい} 食^{しよ} 材^{くざい} を^え 選^え ぶ

・バ^な イ^な オ^な マ^な ス^な ゴ^な ミ^な 袋^{ふくろ} を^な 活^{かつ} 用^{よう} する

2022年度 ^{ねん} 度^ど ^{せい} 生^{せい} 活^{かつ} 本^{ほん} 舗^ぽ 事^じ 業^{ぎやう} 報^{ほう} 告^{こく}

【活動^{かつどう}内^{ない}容^{よう}】

あそび本^{ほん}舗^ぽ

(1) 充^{じゅう} 実^{じつ} した^{しや} 社^せ 会^{かい} 生^{せい} 活^{かつ} に^む 向^と け^く て^く の^く 取^と り組^く み

・コ^{じょう} ロ^{きやう} ナ^お ウ^つ ィ^は ル^{なん} ス^{だん} の^{じょう} 状^{きやう} 況^{きやう} が^し 落^し ち^{だい} 着^{だん} いた^か と^と 判^と 断^く でき^と る^く 状^と 況^く に^と な^く り^く 次^と 第^く 段^と 階^と 的^と に^と 取^と り組^く め^と を

・イ^{つか} ン^{かつ} タ^{かつ} ー^{かつ} ネ^{かつ} ッ^{かつ} ト^{かつ} を^{かつ} 使^{かつ} っ^{かつ} た^{かつ} イ^{かつ} ベ^{かつ} ン^{かつ} ト^{かつ} や^{かつ} 活^{かつ} 動^{かつ} など^{かつ} 、コ^か ロ^か ナ^か 禍^か で^と 取^と り組^く め^と る

情^{じょう} 報^{ほう} を^{ひつ} 必^{ひつ} 要^{よう} と^じ する^じ 事^じ 業^{ぎやう} 所^{しよ} に^{はつ} 発^{しん} 信^{しん} する。

○コ^{じょう} ロ^{きやう} ナ^お ウ^つ ィ^は ル^{なん} ス^{だん} の^{じょう} 状^{きやう} 況^{きやう} が^し 落^し ち^{だい} 着^{だん} いて^か い^た ん^た ら^め ない^か 為^た ら^め 、活^{かつ} 動^{かつ} ・情^{じょう} 報^{ほう} 提^{てい} 供^{きやう} と^と も^と に^と あ^と り^と ま^と せ^と ん^と で^と した

(2) 信^{しん} 頼^{らい} 関^{かん} 係^{けい} (相^{そう} 互^ご 理^り 解^{かい}) を^も 持^も て^も る^も 社^{しゃ} 会^{かい} に^む 向^と け^く た^く 取^と り組^く み

・コ^{じょう} ロ^{きやう} ナ^お ウ^つ ィ^は ル^{なん} ス^{だん} の^{じょう} 状^{きやう} 況^{きやう} を^み 見^み な^み が^み ら^み 、出^で 来^き る^き 活^{かつ} 動^{かつ} に^と 取^と り組^く め^と る^と で^と い^と く。

○コ^{じょう} ロ^{きやう} ナ^お ウ^つ ィ^は ル^{なん} ス^{だん} の^{じょう} 状^{きやう} 況^{きやう} が^し 落^し ち^{だい} 着^{だん} いて^か い^た ん^た ら^め ない^か 為^た ら^め 、活^{かつ} 動^{かつ} は^{かつ} あ^{かつ} り^{かつ} ま^{かつ} せ^{かつ} ん^{かつ} で^{かつ} した

2022年度 ^{ねん} 度^ど ^{たん} 短^{たん} 期^き 入^{にゅう} 所^{しよ} 事^じ 業^{ぎやう} 報^{ほう} 告^{こく}

【活動内容】 別紙—3

1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

- (1) 密を避ける
- (2) マスクの着用を徹底、換気
- (3) 手指消毒、ドアノブなど、手に触れる部分の消毒
- (4) 定時検温など、健康管理の徹底
- (5) 利用前の健康情報確認
- (6) 食事は時間をずらすか各居室にて食する

⇒今年度も引き続いて感染対策を行った

2、生きづらさ(壁)に対するサポートの強化

- (1) 特に外部の方は個別面談で各自の「生きづらさ(壁)」を明らかにする
・壁に対しての支援を考える
- (2) 所属先の支援計画に記載されている、生きづらさに対する支援を深める
- (3) 本人、ご家族、職員 がお互いの違いを認め合い、相互理解を深めて 新しい生活と未来を目指す

⇒外部の方とは連絡を定期的に取った

3、充実した社会生活に向けた取り組み

- (1) ご家族の体調 不良や緊急 を要する案件など不測の事態への対応
・不測の事態へ対応することで、日々の暮らしへの安心感を持ってもらう
- (2) ご家族から離れた生活を経験する事による自立生活への足がかりの場
・グループホーム入居 や一人暮らしに向けた体験的な自立生活の取り組みを行う
- (3) 不安定な精神状態 によって生じた反社会的行為により家庭やグループホームでの生活が困難になった場合の生活の立て直しを図る為に居場所を目的とした支援も行っていく
- (4) 複数の宿泊 施設を利用する事で生活基盤が不安定にならないよう安定した短期入所利用を心がけ、安心、安定した生活が送れるような社会資源の開拓を検討する
・長期入院 退院後の社会復帰に向けた取り組みも検討する

⇒ 開所日が少なく定期的な利用が出来なかった人も多く、連続した自立への支援は行えなかった

4、自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

(1) 短期利用者の自分で解決しかねる事柄や自己判断しかねる事項等 状況を考慮し、
短期利用者の個性を尊重し指導ではない適切な相談、援助を行う

(2) 様々な事業所からの短期利用がある為、関係機関や社会資源の連絡調整を図り、
生活基盤をつくることで主体的に社会参加が出来る様な支援を行う

(3) 短期入所利用中のコロナ禍においての余暇の選択肢を増やしていく

⇒短期入所内で出来る余暇の選択肢を模索する意識をもって取り組んだ。

パソコンやDVD鑑賞以外にカードゲームやボードゲーム等

5、健康に関する取り組み

(1) 通所先や家庭と健康状態の情報を共有する

(2) 状況に応じて服薬援助する

(3) 状況に応じて通院支援を行う

⇒今年度も引き続いて食事の栄養バランスは意識して食材選びから調理まで行った。

通院を行う事はなかった

6、SDGsの取り組み

(1) 食材の検討、食材を無駄にしない

(2) 買い物の際はエコバックの使用

(3) 節水、節電

(4) リサイクル、ゴミの分別徹底と削減

(5) バイオマスゴミ袋の使用

⇒SDGsの取り組みは計画していたことは行っていた為、今後も更に生活の中で工夫
が出来る事を考えていく

2022年度 相談支援事業報告

【活動内容】 別紙—4

1、新型コロナウイルス、感染予防の徹底

面談、モニタリングは可能な限りZOOM等リモートで行う

⇒引き続いてリモート出来る方はZOOMで面談を行った

2、生きづらさに(壁)に対するサポートの強化

(1) 個別面談、モニタリングで各自の生きづらさに対する計画を作成して振り返る

(2) 所属する事業所で作成している支援計画と方向性を揃えて、生きづらさに対する支援計画を深める

(3) 本人、ご家族、職員がお互いの違いを認め合い、相互理解を深めて新しい生活と未来を目指す

⇒ 所属する事業所と方向性を合わせた支援計画の作成を行った

3、充実した社会生活に向けた取り組み

(1) 支給決定時

利用するサービス事業者等との連絡調整を行いながら情報の共有を図り、それぞれの事業所で作成する支援計画指針にずれのない総合的なサービス等利用計画書の作成を行う

(2) 支給決定後

所属する事業所と連絡調整、情報共有を行いながら計画の見直し(モニタリング)を行い、相互理解を深め、強みに注目し、本人が求めている事への実現に向け活動する

(3) 社会資源の調整

- ・計画作成のみでなく、その人のおかれた状況を考え、社会資源の調整を行っていく
- ・地域にとって社会資源の創出が必要な場合には、地域の多様な機関とネットワーク構築を図り相互理解を深めながら調整していく

⇒ 新しい日中 事業所を探して決まった人が 1 名、サービス調整を行った人が 1 名いたが、活動に変化のあった方が少なかったため調整が必要な人も少なかった

4、自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

- ・特に新規の場合、利用する人の意思に沿ったサービス利用や計画作成が出来る様に、情報提示の工夫や事業所の実習や体験利用を行うことで、主体的に計画が描けるような支援をする

⇒ 他法人事業所での実習調整を 1 名行った

5、健康に関する取り組み

- ・所属事業所や家庭と健康状態の情報を共有する
- ・福祉機関につながっていない人や一人暮らしで利用する人などは、日頃の健康に関する状況に留意して、必要によっては通院付き添い等を行う

⇒ 一人暮らしの人などは定期的に連絡を取り合った

6、SDGsの取り組み

- ・事務に係る消耗品類の無駄をなくしていく
 - ・リサイクル、ゴミの分別徹底と削減
 - ・面談などで移動の際は公共交通機関を利用する
 - ・節水、節電
- ⇒出来る事は意識して取り組んだ

2022年度 就労支援事業報告

【活動内容】 別紙—5

1、充実した社会生活に向けた取り組み ※社会状況に応じて、検討していく

*社員への対応

- ・本人の希望や意思を尊重して、興味ある仕事へチャレンジする。
 - ・強みに注目し、ジョブマッチングを考えた就労支援をする。
 - ・状況に応じて、職場見学、体験実習、面接等に向けて取り組んでいく。
- ⇒個々の希望や状況に応じて、就職に向けてチャレンジした。

*就労者への対応

- ・状況に応じて、対面で会うことと電話やメール等での連絡を調整する。
 - ・就労期間に関わらず、定着支援をする。
 - ・会社イベントが再開した場合は、状況に応じて対応を考えていく。
 - ・本人の状況に応じて、柔軟に転職支援・生活支援をする。
 - ・就労者やご家族へ、かたるべ会のイベントや余暇等の情報を伝える。
(環境に配慮し、可能な限りメール等の方法で伝えていく)
- ⇒感染状況に合わせて、電話やメールと訪問による対応を調整した。
- ⇒ご本人だけではなく、ご家族との連絡も継続して取っていた。
- ⇒入社式など、法人イベントの情報をお伝えした。

*新規開拓、就労先との関わり

- ・既存の求人だけではなく、様々な情報から新しい仕事を探していく。
- ・就労先では現状の仕事だけではなく、新しい仕事の可能性も考えていく。
- ・セミナーやオンラインを活用し、情報交換・情報収集する。

⇒ 求人情報はあったが、マッチングする仕事が少ないこともあった。

⇒ 関わりのある就労先から、新しい求人情報もあった。

⇒ 年未年始から積極的に就労に向けて活動できた。

⇒ 新たに障害者雇用を進める情報もいただいた。

2、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

* 就労先との関わり

・職場訪問だけではなく、オンラインの打ち合わせも積極的に活用していく。

・社会状況に応じて、就労先の勤務時間等の状況を確認する。

・かたるべ会の行事(入社式、交流会等)のご案内をし、定期的に連絡をする。

⇒ 入社式等の行事のご案内を通して、継続して連絡を取った。

⇒ 時短勤務の調整やワクチン接種時の休暇確認などをした。

3、健康に関する取り組み

* 就労者への対応

・健康診断の結果等、必要に応じて対応する。

⇒ 必要に応じて、通院の付き添い等をした。

⇒ 体調不良により休職した際、就労先やご家族と連絡調整をした。

・2022年度の就職状況

工藤建設(株)－1名、日祐エクスプレス(株)－1名

ケアパートナー(株)－1名、(株)バルク－1名

合計 4名

・2022年度の退職状況

(株)MCCソレイユ－1名、(株)FRESCOヨコハマ－1名、

ファイザー(株)－2名、(株)ロピア－1名

合計 5名

2022年度 相互理解・交流事業報告

【活動内容】

1、信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

・カルチャーチェンジ指針を通して、認め合い、肯定する文化を伝える。

・かたるべ会主催の交流会をオンライン開催し、外部との相互理解を促進する。

・演劇、講演、音楽等、オンラインを活用し、地域や社会との相互理解を深める。

・バンジョークラブの活動

バンジョー教室を開催し、一般の方も広く参加し、バンジョークラブのメンバーとおんがくかつどうとおそうごりかいふか音楽活動を通して相互理解を深めていく。オンラインも実施する。

・ピープルファーストやてつなぎつづき、神奈川県知的障害施設団体連合会に関わり、他法人との連携、相互理解を深める。オンラインも活用していく。

⇒バンジョー教室をオンラインで行い、かたるべ会のメンバーや一般の方も一緒に参加をして楽しんだ。

⇒横浜にぎわい座で開催されたリビングミュージックフェスティバルでは、感染状況を考慮してビデオ出演という形で参加した。

⇒ピープルファーストやてつなぎつづきはオンラインの打ち合わせに参加した。
てつなぎつづきではメンバーさんもオンラインで交流する取り組みをした。

2、自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

・ナチュラルファースト(法人の自治組織)の活動を活かし、様々な活動に繋げる。

・ピープルファーストの活動に参加し、自主性・主体性を尊重する。

・各地域、社会状況に応じて、自治会に参加し、地域との相互理解を深める。

※ピープルファースト

1973年にアメリカで始まった知的障害者の当事者団体で各国に広がっている。

「障害者である前に人間である」という想いから、様々な活動を行っている。

日本では毎年全国大会が開催されている。2021年は兵庫でオンライン開催。

2022年は北海道で開催が予定されている。

⇒ナチュラルファーストの活動をオンラインで実施し、各事業所が協力して取り組み、YouTubeに動画投稿をした。

⇒ピープルファーストの活動ではオンラインの定例会の他に、献花をするために津久井やまゆり園を訪問したり、県の部会を傍聴したりした。

⇒ピープルファースト北海道全国大会は7名がオンライン参加した。

⇒北海道のグループホーム不妊処置問題について、北海道庁を訪問し、実際に子育てをしている話を伝え、その後取材も受けた。

かつどうないよう
【活動内容】

1、「支援」の充実に向けた取り組み

*新人職員対象 ※可能な限り対面で実施をする。

・採用後1ヶ月、新人職員研修で下記項目を実施する。

【座学】

基本理念、支援に当たっての留意事項、カルチャーチェンジ指針、

愛に気付くコミュニケーション、内観、オープンダイアログ

障害者虐待防止法、差別解消法

【体験】

日中、グループホームの各事業所を体験する。

懇親を深めるため、若手職員との横浜ツアーをする。

⇒若手職員による参加型の新人職員研修を対面で実施した。

入社1週間で基本理念等の座学と各事業所を見学するスケジュール。

最終日には懇親を深めるため、若手職員と新人職人で横浜ツアーに行った。

参加者…新人職員8名、若手職員10名

・採用後1～2ヶ月、各事業所で所属長・エリアマネージャーにより実施する。

法人規約・規定、法人ガイドライン、リスクマネジメント

(企画提案制度、服薬管理マニュアル、行方不明時対応、災害時行動)

GRIDY・どこキャビ、スカイプ・LINE・Zoom の使い方

障害の基礎知識、福祉施策

・外部研修

初任者研修(障害者支援センター主催 4日間)、てんかん講座

⇒初任者研修…参加者9名、てんかん講座…参加者9名

・採用後3ヶ月、事業所訪問 ※状況に応じて、検討していく

日中事業所、グループホーム等法人内施設を訪問する。(2日間)

・採用後随時、安全運転講習(日中活動職員対象)

個別に実技講習を実施し、必要に応じて再実施し、安全運転を意識していく。

⇒6月-2名、11月-1名

*全職員対象

・職員全体研修(年2回)、各事業所(随時) ※可能な限り、対面で実施する
法人基本理念の認識、障害者への仕事・生活・余暇の支援をしていく上で、
違いを認め合い、相互理解を深め、信頼関係を築き、支援の質を高める。
一人ひとりが大切な人たちであり、必要とされていると実感できる研修を行う。
⇒4人1組の対面による、ワークショップ形式の職員全体研修をうれしので実施。

「①職員全体研修」

日時:2022/5/18(水)~8/4(木)14:00~17:40

内容:オープンダイアログを体験

参加者:常勤職員75名

・救命講習(各事業所、各エリアで実施)

成人に対する心肺蘇生とAEDの使用方を主体とした講習。

2022年度 健康管理事業報告

【活動内容】

1 健康診断

- ・第1、第2、第3かたるべ社・ジャスミン・うれしの社員——年2回
- ・GH入居者——年1回(各職場で対応)
- ・職員 日中活動・相談支援職員——年1回
- ・GH・短期入所職員——年2回(労働安全衛生規則による)
- ・GHアルバイト・ドライバー職員
⇒アルバイト・ドライバー職員は受診しなかった
- ・40歳以上の社員・職員に人間ドック
(以後5年ごとに1度、人間ドックを受診する)
- ・40歳以上の女性社員・職員に婦人科健診
(非常勤職員は週4日以上でかたるべ会を主体として勤務されている方)

※サイクリック:東京中央クリニック:神奈川予防医学協会

⇒今年度も3カ所の医療機関にて11月~2月に実施した

健康診断団体健診は12月16日・22日に実施した

人間ドック、婦人科健診は1月～2月に実施した

健診結果を踏まえて 別紙—6

- ・身体測定については、BMI値、腹囲測定値の評価となっているが、昨年、一昨年と比べて異常なしと評価される人が増えている。血液検査の脂質も正常値の人が増えており、健康状態が改善されていると言える
- ・糖代謝は血液検査中の血糖値と HbA1c値(ヘモグロビン A1)の総称だが、これは昨年よりも異常ありの人が増えており、糖尿病予備軍の方が増えている
- ・視力は異常なしと評価される人が年々減り、要経過観察、要二次検査とされる人が増えている

2 感染予防・衛生管理

- ・ 感染予防マニュアルに従い、衛生管理を徹底する
- ・ 来客者の管理、訪問先への感染予防策実施
⇒各事業所訪問者の日時、検温を記録した
- ・ インフルエンザ予防接種の実施(職員・社員)
⇒11月11日・14日にうれしのにて実施した
- ・ インフルエンザ・ノロウイルス等の流行については、状況に応じて対応していく
- ・ 衛生管理の徹底—手洗、常時マスクの着用、アルコール手指消毒
⇒衛生に関する必要消耗品は横浜市サービス継続事業補助を活用した
- ・ 衛生管理に関する職員研修
日中活動—食品管理衛生責任者講習 必要に応じて受ける
食品に関する研修に参加(食品表示法等)
GH—食品管理衛生責任者講習 外部研修必須
感性予防のために内部研修(事務局会議にて)
⇒各自、必要に応じて講習受講した

◎新型コロナウイルスの感染防止

- ・ 新型コロナワクチン予防接種の実施(職員・社員・ご家族等)
⇒4回目接種を7月～8月にうれしのにて実施した
5回目接種を12月2日にうれしのにて実施した
- ・ PCR検査の定期実施(横浜市実施)
⇒感染の兆候が見られた際 様々な手段を準備して適宜実施した

- 抗原検査の適宜実施

⇒12月から横浜市から検査キットが配布され、日中職員は週2回

グループホーム職員は勤務前に検査結果をリーバーにアップした

- 在宅時及び事業所在籍時における検温の実施

⇒リーバーによる検温管理を継続して実施

※法人内でのコロナウイルス感染

⇒1年を通じて、職員31名、社員57名、ご家族105名の感染者がいました

感染者対応で、日中事業所の閉鎖、うれしの事業所での療養、第2グリーン

ハイツでの療養、職員の緊急配備など、感染状況に応じて対策を講じました

3 生活習慣病予防等に関する相談

- 肥満・高血圧等、生活習慣病予防に関する取り組みを行う。
- 肥満対策について(運動面・食事面サポート、関係機関連携)
- 看護師による心身(ストレスなど)共に健康に関する相談
- 井泉先生(嘱託医)星野先生(嘱託医)による健康相談 カウンセリング
⇒星野先生の定期カウンセリングを毎月実施する

2023年度4月から井泉先生のカウンセリングを実施するため準備をする

4 健康に関する取組・各事業所との連携を図る

- 健康的な食事(昼食の献立等 栄養面を考える)
- 健康的な運動(日常の体操の習慣化)
- 在宅における健康推進の提案

2022年度 防火防災事業報告

【活動内容】

1. 防災・避難訓練の実施

◎社員・入居者・職員の自主的・主体的な行動を明確にする

○日中活動施設・・・年2回実施(各事業所ごと)

※感染予防を徹底し、図上訓練などオンラインでの訓練実施も検討する

・1回目・・・地震時の防災避難と避難場所への経路確認・消火器使用訓練

⇒ 感染予防の観点から少人数で実施

・2回目・・・火災通報訓練・消火器使用訓練

⇒ 感染予防の観点から少人数で実施

○GH・・・法人合同防災避難訓練 年1回実施

※感染予防を徹底した上で実施を検討する

・地震を想定した避難訓練・避難場所への経路確認

⇒ 感染拡大中だったため実施できなかった

○水災害対象地域事業所・・・年1回実施

※感染予防を徹底し、図上訓練などオンラインでの訓練実施も検討する

・水害を想定した屋内避難訓練・避難場所への経路確認

⇒ 事業所ごとに実施

○地域開催の防災訓練等への参加を検討する

⇒ 地域防災拠点ごとに訓練実施の有無があり一部の GH で参加した

2. 防火・防災設備の点検及び備蓄品の管理

○日中活動施設(各事業所)

・法人自主点検・・・年2回実施 (リモート環境も併用する)

⇒ 事業所ごとに実施

2事業所で消火器の使用期限について確認をおこなった

1事業所でポケット Wi-Fi が所在不明のため確認をおこなった

・消防署の立ち入り検査・・・要請に応じ随時

・消防設備法定点検・・・年2回実施 (各所轄消防署に年1回提出)

・ジャスミン・・・工藤建設による消防設備点検実施 年2回

○GH(各事業所)

・法人自主点検・・・年2回実施 (リモート環境も併用し実施)

⇒ 事業所ごとに実施

・消防署の立ち入り検査・・・要請に応じ随時

・消防設備法定点検・・・年2回実施 (各所轄消防署に年1回提出)

○日中活動施設・GH共通

・防災用備蓄品の期限や内容の確認を行い適正な物を常備する

・災害時の情報収集のため Wi-Fi 環境や充電用バッテリーを常備する

・消費期限の近づいた非常食・非常用飲料水は、フードバンクへの寄付を

おこなうなど^{はいきいがい ほうほう けんとう}廃棄以外の方法を検討する

⇒ 3事業所^{じぎょうしょ}で非常食^{ひじょうしょく}の消費期限^{しょうひきげん}が近い^{ちか}ためフードバンクへの寄付^{きふ}をおこなった

3. その他^た

○「災害時^{さいがいじ}の対策マニュアル^{たいさく}(職員用^{しよくいんよう}・ご家族用^{かぞくよう})」の更新^{こうしん}(随時^{ずいじ})

○「災害時^{さいがいじ}の業務継続計画^{ぎょうむけいぞくけいかく}」の策定準備^{さくていじゆんび}

⇒ BCP作成セミナーへ参加^{さんか}しひな形準備中^{がたじゆんびちゆう}

○緊急時^{きんきゅうじ}の連携^{れんけい}と緊急連絡先^{きんきゅうれんらくさき}の確認・更新^{かくにん こうしん}(随時^{ずいじ})

○防火管理者^{ぼうかかんりしゃ}の設置^{せっち}・消防計画^{しょうぼうけいかく}の作成提出^{さくせいていしゆつ}(随時^{ずいじ})

⇒ ジャスミン防火管理者選任届^{ぼうかかんりしゃせんにとどけ} 並びに 消防計画書提出済^{しょうぼうけいかくしよていしゆつすみ}

○横浜市主催^{よこはまししゆさい}の災害時連絡訓練参加^{さいがいじ れんらくくんれんさんか}(随時^{ずいじ})

○地域^{ちいき}の防火防災活動^{ぼうかぼうさいかつどう}と連携^{れんけい}する

○AED使用研修^{しやうけんしゅう}をオンライン等^{とう}で実施^{じっし}

○ALSOK・まもるっく・GHみまもりサポート^{しやう けんさくけんしゅうじっし}の使用・検索研修実施

⇒グループホーム事務局会議^{じむきよくかいぎ}にて実施^{じっし}

○新設^{しんせつ}GHへの防犯カメラ^{ぼうはん}の設置^{せっち}(随時^{ずいじ})